



「Catch Ball キャッチボール」 ～地域に開かれた農場を目指して～

住 所 : 〒014-0054 大仙市大曲金谷町26-9
電話番号 : 0187-63-2257・Fax 0187-62-3434(大嶋農場:Fax兼用 0187-68-2381)
U R L : <http://www.daino-h.akita-pref.ed.jp>

* 農場便りに関するお問い合わせ農場経営部までご連絡下さい。

若げもんチャレンジ産業祭 秋田ふるさと村(横手市) 11月23日(火)

家庭部の1年生4名が高校生チャレンジショップブースで農産物の販売を行いました。

地域産業の担い手育成プロジェクト

☆畜産(酪農)長期研修

畜産部の3年生2名が11月19日から12月10日まで約3週間、栃木県那須高原で研修を行っています。

☆大農米首都圏販売実習 11月27、28日

農業科学科3年課題研究「作物」選択者4名が東京都港区にあるアンテナショップ「あきた美彩館」であきたこまちをはじめとした農産物を販売しました。

☆グリーンツーリズム体験研修 12月3日(金)

農業科学科2年「グリーンライフ」選択者15名が岩手県花巻市にある農家レストランにて研修を行いました。



○それでは恒例の部門報告です!

◆施設野菜部門より

暑い時には体を冷やす夏野菜を、寒い時には体を暖める冬野菜を・・・先人は考えて食事をしたものだとつくづく思います。施設温室(温室とはいえない寒さですが)では、最後のコマツナ・オータムポエムが収穫中です。雪も舞い始めるこの季節、鍋におひたしにいかがですか?

◆露地野菜部門より

今年度の露地ものの収穫はほぼ終わりました。今年は異常気象の中非常に管理が大変でしたが、富樫先生を始めとし、生徒みんなががんばってくれたおかげで昨年度と変わらない成果を上げることが出来ました。葉菜類の値段が高騰しましたが、大農露地野菜は値上げもせず、市民の方々に提供したつもりです。これからは来年度に向け新しい作付け品種の検討に入ります。来年も大農野菜よろしくお願いします。

◆草花部門より

花卉部の生徒達が元気に、遠野から担い手研修を終えて帰って来ました。普段できない多くの経験ができ、たくさんの人に出会うことができたようです。遠野のみなさん、ありがとうございました! また温室では、この夏の暑さを乗り越えたシクラメンが咲き始めました。ぜひ見に来てください。販売もしています。

◆果樹部門より

11月6日、農業科学館のイベント「おやこ自然教室～リンゴを収穫しよう～」に果樹部員6名で参加してきました。例年は果樹試験場の先生方が講師を務めるのですが、今回は本校果樹部員で講師を務めました。部員の発案で「リンゴクイズ」を実施したり、リンゴの収穫方法を大きな模型で説明するなど、参加した幼児や小学生に大好評でした。時間を掛けて準備した甲斐があったのではないかと思います。また、収穫の補助も子供達の目線での確にできていました。この経験を今後の活動に生かしていきたいものです。

本校果樹園でもリンゴ「ふじ」の収穫が終わり、園内の片付けや荷造り作業に追われています。そして今後は冬の剪定作業へと移ります。果樹に休みはありません。

◆食品加工部門より

漬け物はどうして出来るのでしょうか？

漬け物は、食塩の脱水作用や防腐作用を利用して、野菜を長期貯蔵することを目的として発達した加工法です。近年は、嗜好の変化や健康への関心から、低塩傾向にあります。漬け物では、食塩濃度が低くなると、保存性が悪くなるので、エタノールや糖の添加（浸透圧）、酸の添加（pH）、加熱殺菌、低温での保存や流通が併用されています。本校では担い手事業を活用し、地域の生産者の方に外部講師を依頼し、実践的な授業を行っています。

◆生物学部門より

ガラス温室はすっかり冬支度となりました。コチョウランはステム（花茎）を立ち上げ始め、シンビジウムにも花芽が着き始めました。今後の開花が楽しみです。

大嶋農場

◆大家畜部門より

残念なお知らせです。「だいのうはな」と「だいのうなみ」を獣医さんに診てもらったところ、2頭とも卵巣が機能していない状態で繁殖牛としては無理だと診断されました。このまま飼育しても経済的に厳しい状態であることから、11月21日大曲家畜市場に出し、それぞれ別の肥育農家を買われていきました。ドナドナドーナドーナ、、、。寂しいですが仕方ありません。

現在、大農で飼育している牛は成牛5頭になりましたが、3月には3頭、うまくいけば7月に1頭、8月1頭生まれます。きっと来年は賑やかな牛舎になることでしょう。

◆中家畜部門より

朝夕の寒さが厳しくなり、冬到来の季節になってきました。今月出産予定だった豚も6頭分娩し5頭の子豚が体をよせあって寒さをしのいでいます。豚の出産頭数としては少なく、困ったものです。要因としては、環境要因が考えられます。今夏の酷暑により母豚が弱り排卵に影響が出たのかもしれませんが、豚は経済動物なので、繁殖豚として能力が低ければ更新等も考えなくてはなりません。次の分娩の様子を見ていくことになります。

頭数は少なかったものの豚舎内では新たな生命が誕生し、賑やかになりました。大嶋農場に実習の際は様子を見て下さい。でも、風邪をひいている人は近づかないようにしましょう。

◆小家畜部門より

オールインオールアウトという言葉は知っていますか？鶏は個体差はありますが徐々に産卵率が落ちてきます。そこで個体管理のしやすさから、廃棄する鶏と新しく入れる鶏をなるべく大きな数字にします。大嶋農場ではそのまま埋却するのはもったいないということで廃鶏を薫製にしようとしています。市販のものよりはおいしくないかもしれませんが、命を大切にするとというのはこういうところからも表れると思います



◆作物部門より

冬場は、今年も一年がんばってくれたコンバインや田植機など機械の整備を行っています。また、来年度の準備として苗を育てる為の土の準備も行っています。